

## 投資事業評価調書（新規）

部課室名	農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地整備課長 松 浦 猛 (太野垣 賢治)	内線	4003  (4016)
------	-------	---------------------	-----------------------------	----	--------------------

事業種目	ほ場整備	事業名	事業区間	総事業費	約 1億円
		基盤整備促進事業(農地等高度利用促進事業・農地維持保全型)	大坪地区	内用地補償費	億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
佐用郡佐用町大坪			H16	H16	H19
事業目的			事業内容		
土地利用型農業のコスト低減、経営の安定強化を図るため、農地の区画形質及び道水路を整備し、機械化営農体系を確立するとともに集落営農組織への土地集積を促進する。  事業主体：佐用町			区画整理 7.1ha  (国55% 県15% 町7.5% 地元22.5%)		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	当地区は、用水源の大半を井堰に依存し、水稻の他黒大豆・なす等が生産されているが、現況の農地は不整形で幅員狭小の道路と用排兼用の土水路であるため、営農効率が悪く、高齢化も進み、農業従事者にとって多大な労力が負担となっている。 このような状況の中、ほ場整備の実施により、機械化や水管理の合理化を促進し、また担い手（集落営農組織）を育成することにより、中山間地域での野菜栽培の拡大を図り、農業生産性の向上と経営の安定を確保する必要がある。				
(2)有効性・効率性	生産基盤整備を契機に新たな営農組織が設立され、生産性の高い農業の確立、農地の保全並びに地域農業の活性化が期待できる。また、農業・農村の持つ多面的機能の維持保全に寄与するものである。 費用便益比 B/C= 1.05、所得償還率 32.0% 同意率 100.0%				
(3)環境適合性	地区内の要所において、現地の自然石を活用する等生態系に配慮した整備を行うとともに、地区下流部の排水路においては、現在、ホタルの生息地になっているため、最小限の整備にとどめ、自然環境の保全・維持に努める。 道路路盤材等については再生砕石等を積極的に利用する。				
(4)優先性	当該事業で農地の荒廃を防止するとともに、地域の一体的整備により、農地の保全及び地域農業の活性化が図られる。 高齢化に伴う担い手不足に対応し、集落営農組織を設立し、持続的な農業生産が行われ、優良農地の保全と多面的機能の維持が図られる。				